



通信

2018. 11. 9. Vol. 104

公益社団法人 福島原発行動隊

東京都千代田区神田淡路町1-21-7

静和ビル 1階A室 〒101-0063

Tel: 03-3255-5910 Fax: 03-3525-4811

Mail: svcf-admin@svcf.jp Web: <http://svcf.jp>

福島現地行動（稲と土壌の放射線量測定サンプル採取と稲刈り）報告

加藤 朗

「福島現地行動」として10月6日から7日に掛けて福島県飯舘村で行われた「ふくしま再生の会」主催の「稲と土壌の放射線量測定サンプル採取と稲刈り」に隊員5名が参加しました。「行動隊」がこれから展開しようとしている「原発事故被災地福島県の復興支援事業」に大いに参考になりました。加藤隊員から寄せられた報告です。

10月6日(土)、7日(日)の両日にかけて、飯舘村へ稲刈り支援に参加した。行動隊からは杉山隆保理事をリーダーに総勢5名(大久保恒治、飯島定幸、加藤朗、渡辺正彦)が参加した。稲刈りは、東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻溝口勝研究室が主催する「飯舘村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム」のワークショップの一環で、東京大学、茨城大学、宮城大学、明治大学、四日市大学の教員、学生そして富士通の社員など数十人が参加した。

私たちは6日の昼過ぎに福島駅に集合して、車で現地向かった。午後は、稲と土壌の放射線量測定サンプル採取の予定であったが変更となり、サンプル採取に代えて、東大溝口研究室が飯舘村松塚地区で行っている「飯舘村の水田における農業土木的土壌除染法の試み」の「土壌博物館」と称する実験施設を訪問した。

同地で東大溝口研究室は「ふくしま再生の会」と協力して2011年以来福島県の農業再生を目指して精力的に農地の土壌改良に向けた取り組みを行っている。私たちも、実験施設内にたまった水の掻き出しや、施設の修理などを手伝った。また、近くにある高橋日出夫さんの花卉栽培の温室も見学した。温室は全額補助ということで、空調が完備した立派な施設であった。近くには太陽光発電パネルが多数設置してあるので、てっきり電気も太陽光発電を利用しているのかと思っていたが、通常の電気だということだった。電気の地産地消はやはりまだ困

難なのだろう。

6日は伊達市内の宿泊施設に一泊し、翌朝稲刈りに出発した。当日は晴天に恵まれ、絶好の稲刈り日和だった。山間の水田の一角に植えられた稲はたわわに実り、他の田んぼの稲と全く変わるところはなかった。一枚はコンバインで、もう一枚を数十人がかりで手作業で刈ることになった。稲刈りは人生で初めての体験である。稲を鎌で刈るのは問題ないのだが、根元を藁でくる作業に骨を折った。場所によって稲の生育に差があるようで、稲数束で一握りになる場合もあれば、7~8束でないで一握りにならない稲もあった。また、スズメや野鳥の鳴き声が全くしないので、放射線の影響でもあるのかと思ひ地元の人に尋ねると、飯舘には昔からスズメがおらず、稲作に向いているとのことだった。隣の田んぼでコンバインが唸りをあげると小一時間もしない間に稲刈り、脱穀が終わった。収穫後は、田尾陽一さん宅の前庭で、参加者が集まり、杉山理事も腕を振るった芋煮のごちそうにあずかった。

私は2011年5月に飯舘村を訪問したことがある。その時は、時折車が通るだけで人ひとりおらず、まさに死の村といった態であった。しかし、今回は村の変貌ぶりに驚いた。学校やスポーツ施設そして道の駅など立派な施設が新設されていた。ハコモノが立派なだけに、逆に人の少なさが際立った。原発の被害と過疎とをどう克服するかが課題だろう。

院内集会第二シリーズ「原発事故被災地県福島復興」①

楡葉町の再生をめざして

楡葉町町長 松元幸英

10月18日に院内集会第二シリーズ「原発事故被災地県福島復興」の皮切りとして楡葉町町長の松本幸英さんをお招きして行いました。松本さんは38ページにわたる資料にそって震災前の楡葉町とこれから再生しようとする楡葉町について映像を活用しながら詳しく説明されました。また、大島九州男、増子輝彦両参議院議員、階猛衆議院議員秘書・河村匡庸、増子議員秘書・上原豊喜のみなさまにご出席いただきました。説明に使用された資料は「行動隊」のホームページに掲載しました。URLは以下の通りです。Webを活用されている方々は直ちに観ることができます。会報を郵便でお受け取りになっている会員は事務局にご請求ください。▽資料のURL：<http://svcf.jp/archives/6910>



楡葉町松本町長の講演を聴いて

復興に向けた取り組みでは、特に「町の基幹産業の農業再生」と「魅力ある教育環境づくり」が目をつけた。農業の再生では、営農再開取り組みで、水稻、さつまいも等の作付け拡充、営農者の育成が主要な支援とのことであった。教育環境づくりでは、新規プロジェクトの「中学生室」の結成にあるように思えた。次世代のまちづくりには中学生の若い感性による主導としたいのであろう。講演で触れていた「楡葉町水道水の販売」は、11月2日より開始された。近いうちに、木戸川に遡上する鮭の「イクラ」についても販売開始されるものと思われる。(家森健記)

▽次回は11月15日(木)午前11時から、北村俊郎さん(元日本原子力発電株式会社理事、福島県須賀川市在住)に「福島復興を考える」の題でお話していただきます。時間を割いて御参集ください。お待ちしております。

会場は参議院議員会館一階102号室です。10時30分から入館証を配布いたします。

寄稿 行動隊に入って 山田 次郎

般若湯で心身清めてまた福島に向かう

3.11の時、住まいのマンション管理組合の理事をしておりました。既に退職している身でもあり且つ阪神大震災の時に現役サラリーマンであった事から直接のボランティア活動が出来なかった悔いもあり2011年4月によろしく理事を退任して宮城県、夏に岩手県に向かい僅かながらの泥かきお手伝いを致しました。しかし、福島県ではどんな事が出

SVCF 通信：第104号 2018年11月9日

来るのか考えめぐねておりました。確か2011年秋だったと思いますが、インターネットで原發行動隊の事を知り、しかも60歳以上となっておりこれなら行けるぞと登録をしました。

最初の活動参加は2012年2月の岬学園の芝生の表土剥ぎでした。凍土状態の所にスコップが入らず力の無さを痛感。一方で重機の資格取得を

2 公益社団法人福島原發行動隊

されている女性などの話を聞いて感心したり。

その後はモニタリングを何軒かお手伝いしたり、帰還困難区域のご自宅の草取りを檜葉町や富岡町でやらせていただきました。

モニタリングでも草取りでもオーナーの方とお話したりして避難時の事や一時帰宅した時に牛舎で牛達が餓死した事、退職後の終の棲家と思って3世代の為の自宅を建てたがほどなくして被災した事、そんなお話を伺ったり2階の子供部屋の室内モニタリングをしながら見回すと、たった今までそこでゲームソフトで遊んでいたようにカセットや漫画本が置かれている様子に言葉を失うばかりでした。

最初は行動隊の院内集会などで威勢の良い皆様の議論などにとっても入れなかったのですが、現地行動に何度か参加する内に少しずつ顔なじみも出来て、ちょっとだけお話が出来るこの頃です。

それにしても会社人生から自分の人生になった訳ですが、行動隊を知った事で随分とその後の世界が広がった気がしています。

いろいろなバックボーンを持った方々が居られてそこに一緒に出来る事が新鮮です。

岬学園の方々との交流も、避難されている方々との会話も、一年でジャングルのようにってしまったお庭の状況も、福島第一原発に見学した際の職員の対応も、シンポジウムでの東電の廃炉プレジデントのお話も、本当に得がたい経験をさせていただいています。行動隊に感謝しております。

2008年9月に退職し、翌10月から12月に掛けて四国お遍路に行きました。

身体を動かす事が好きで、それでどうしても行動隊でも現地作業には積極的に対応するものの、毎週の事務局会議などには敬遠気味なのは恐縮です。1200キロとも1300キロとも言われる四国を一周します。大分古いデータですが年間15万人お遍路して、バス・タクシー・乗用車・バイク・自転車・歩きとそれぞれのやり方で巡ります、歩きお遍路はその内の5千人。わたしは、一气通貫で歩きました。徳島→高知→愛媛→香川と1番寺から88番寺まで巡ります。反対回りをすると三倍の御利益があるとかいろいろ言いますが、そんな事は関係ないです。かんかん照りで暑かろうが雨に降られようが

(実際に雹と雷雨が)雪が降ろうが、山道の落ち葉と石が濡れてスッテンコロリンもあろうが、ただただ歩くだけの日々。退職後の人生設計を考えるはずだったのですが、とにかく目の前の道の様子とお昼をどこで食べられるかと今夜の宿は大丈夫か、明日はどこまで歩いて宿はどこに出来るか、そればかりを考えた日々です。

道々の中で景色が素晴らしく、汗をかいて清々しく、四国の美味しい山海のお食事を頂き、夜は疲れを取るため(?)にイッパイいただき、独特のお接待文化にも触れてと。わたしはブラブラがあつて51日間掛かりましたが35日~45日くらいが多いようです。宿泊はお遍路宿と言われる民宿や旅館、ときにはホテルにも泊まりました。宿は点々とあるような無いような。お寺とお寺の間も数百メートルから数十キロまでマチマチです。ですから、前々日若しくは前日に予約を入れて夕方までには着くつもりがいきなり電話で「おばあさんが入院したから当面泊められない」と言われると慌てて次の宿を探します、ところがその先は10キロ先の事もある訳で、結局夜8時半までヘッドランプを点けて山中を歩いた事もありました。平地ですと30キロとか最大で40キロとかも歩けますが平均20キロ程度です。中には数百mの山や峠を上がったたり下りたり繰り返しては9キロしか歩けなかった事もあります。国道トンネルが開通していてそちらが当然楽なのですが、何くそ旧道をと歩いたらこれが大変な峠道でへろへろになって越えたときに峠から海と小さな湾を見下ろした時の感激は最高の景色でした。トレッキングシューズを履いていましたが愛媛県に入った頃に底が割れてしまい、雨の時はグシュグシュ。スニーカーの方々はたいてい買い換えて二足でした。

四国にはお遍路に対する素晴らしい独特の文化があります。お接待もそうです。20キロ近くの行程で全く買い物も出来ず食事出来なただただ海の横の国道と山々だけの道でいきなり軽トラックが寄ってきて、窓からミカンの入ったビニール袋を「頑張ってください」と言われて渡されたり。この時は本当に昼食の場所も買う所も全く無くて結局いただいたミカンが昼食でした。広い川の沈下橋(潜水橋とも)を渡っている時に向こう岸の堤防から車

が下りてきてこちらに渡ろうとしました。わたしは途中まで既に歩いていてこりゃあすれ違うのもコワイ(欄干が無い)なあと立ち止まったら、わたしを認めた車が向こう岸で全く動かず待ち状態。結局わたしが渡るまで車は待ってくれました。この時、実はわたしは一般的なお遍路の格好(菅笠と白装束)をしていなくていつもの山登りの格好でしたが、唯一杖(卒塔婆の代わり:行き倒れた時の墓になる)を持っていたのでその杖を見て車は「空海と同行二人」のわたしをお遍路と認識して待たれた訳です。四国のお遍路文化は素晴らしいです。

お遍路を結願して清い人になったと本人は思っておりますが、如何？

因みに福島への行動もお遍路と同じように行だと思っております。ところが福島への行き帰りの車中の会話は本誌 8 月号にありましたように美脚が話題になったり、「お遍路宿ではお酒は飲めるのか？」と齢 80 の大先輩に真剣に聞かれたり、どうも俗臭ぷんぷんで慨嘆するばかり。お蔭ですっかりわたしも俗世にどっぷり！

とは言え、般若湯で心身清めてまた福島に向かいたいと思う心境です。合掌。

・44 番大宝寺から 45 番岩屋寺に向かう八丁峠(標高 730m)の朝9時の雲海



・吉野川の沈下橋(欄干無し)の1車線



事務局からのご報告とお願い

▽11月の事務局会議開催日

9日(金)、15日(木、院内集会后)、23日(金、祭日)、30日(金)

▽年末・年始の事務局閉鎖期間

12月28日(金)～2019年1月6日(日)

▽院内集会第二シリーズ以降の企画を募集しています。

中島さんからの提案がありました。「特定復興拠点を考える」、「イチエフのトピック別シリーズ」

▽今年度の「福島集会」を計画しています。集会だけでなく檜葉町に建設された「モックアップ施設」見学と結びつけて集会&見学です。このプロジェクト要員を募集します。ぜひ、ご応募ください。

▽「福島復興支援事業」の下準備で代表以下数名が19日に川内村、富岡町、檜葉町等の役場を訪問します。

